## 国家試験登第者謝恩会

〔『法学新報』第34巻4（387）号　大正13年4月5日〕

○国家試験登第者謝恩会　中央大学出身にして大正十二年度国家試験に多数の合格者を出したるは一に質実剛健なる校風の下に詢々乎として倦むを知らさる恩師諸先生の多年の御薫育の賜物に外ならすと此の高恩に対する微衷を表せんものと吾人相図り去る一月二十七日夜本郷燕楽軒に謝恩の宴を開けり、宴前諸先生と共に記念撮影を為し卓に著く一同歓喜に酔ふ而してデザートコースに入るや清水繁一君拍手裡に立ち合格者を代表して謝恩の辞を述ふ恩師側より先つ馬場鍈一先生懇篤なる祝意を述へられ次て諸先生より何れも吾人等の将来に対し懇々と訓へられ且祝意を表せられたり(1)良心に基かぬ権利及義務は空虚なること(2)人の成功の要訣は一押し二金三器量なること(3)将来太く大く生きんとする者は学問を道楽にすること等は就中吾人の脳裡に徹したる事柄なり吾人等交々或は学窓に於ける過去の思出を或は将来の抱負を述へたり余興百出歓談の尽くるを知らさりしも夜も更けたれはとて九時和気靄々裡に閉会せり、因に当夜の出席者は来賓馬場鍈一佐藤正之両理事林頼三郎池田寅二郎吉田久阿部文二郎草野豹一郎小野清一郎堀竹雄大松教務課長の諸先生及登第者側よりの出席者は左の諸君なりき

（イロハ順）

行政科合格者　早川　浩　千葉卯源太　奥田四方夫
關　藤次

司法科合格者　神川　貫一　兒玉　斎　芦田　宅市
關根詮太郎

五十二号合格者　岩川　勝一　西村　定雄　次木　豊
植田　德一　久保　千里　釘宮　審　松岡　松平
近藤航一郎　遠藤清四郎　安藤　晋　新井　瀧次
清水　繁一　鈴木　熊七